

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (平成19年3月調査)

調査の目的

- ・経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

調査の概要

- ・調査客体数…県内各地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名です。
- ・調査内容…景気の現状、先行き判断とその判断理由を質問します。
- ・調査時期…四半期（6、9、12、3月）ごとに実施し、翌月公表します。

結果の概要 (回答率 92.7%)

景気現状判断 DI	景気先行き判断 DI	※ DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の一つであり、景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるもので、50が横這いを表しています。茨城県景気ウォッチャー調査では、回答を区分ごとに点数であらわし、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出しています。
県全体 51.3 (-0.4)	県全体 53.0 (+4.7)	
県北地域 51.4 (-0.8)	県北地域 52.3 (+4.1)	
県央地域 52.3 (+1.9)	県央地域 50.0 (-0.9)	
鹿行地域 49.1 (-4.5)	鹿行地域 51.8 (+4.0)	
県南地域 50.9 (-0.4)	県南地域 55.6 (+8.1)	
県西地域 53.1 (+2.2)	県西地域 54.8 (+7.5)	

※()は前回調査(平成18年12月)との比較をしたものです。

- 3か月前と比較した景気の実況判断 DI は、前期(12月調査)比0.4ポイント低下の51.3となったものの、横這いを表す50を平成17年12月調査以来6期連続で上回りました。

「家計動向関連 DI」は前期比横這いの50.1となり6期連続で50を上回った。これは、暖冬により小売業からは冬物の販売不振の声が聞かれたものの、レジャー産業からは客数増の声があったことなどによる。「企業動向関連 DI」は原材料費の高止まり傾向により製造業が悪化したことから前期比1.2ポイント低下したものの、不動産業など非製造業が好調であったことから3期連続で50を上回った。また、「雇用関連 DI」は一部で正社員への切替えも見られるなど、引き続き求人数が増加していることから、15期連続で50を上回った。

〈主な判断理由〉

- ・暖冬により、入場者数が増加している。(ゴルフ場)
- ・暖冬により、冬物の売上げが不振であった。(衣料品販売店)
- ・受注量は若干増加傾向にあるものの、ステンレス材料の高騰が続いているため、景気にブレーキが掛かっている。(製造業〔電気機械器具〕)
- ・公定歩合の利上げにより、駆け込みで住宅ローンを申込み客が増加している。(不動産業)
- ・取引先では派遣を使わず、自社雇用するようになってきており、企業が体力を付けてきたように思われる。(人材派遣業)

- 3か月先の景気の実況判断 DI は、前期(12月調査)比4.7ポイント上昇の53.0となり、横這いを表す50を2期ぶりに上回りました。

定率減税廃止など税負担の増大による個人消費への影響を懸念する声が聞かれたものの、行楽シーズンへの期待感から「家計動向関連 DI」は2期ぶりに50を上回った。「企業動向関連 DI」も製造業を中心として受注が見込まれるとの声が聞かれ、2期ぶりに50を上回った。また、「雇用関連 DI」は9期連続で50を上回っており、新店舗出店による求人が見込まれるとの声があるなど、引き続き求人数は増加するとの声が多く聞かれた。

■調査から

〈主な判断理由〉

- ・増税による生活コストの増大が懸念され、消費は鈍ると思われる。(スーパー)
- ・新緑のシーズンを迎え、客足が伸びると思われる。(観光型ホテル)
- ・新規の相手先商標ブランド(OEM製品)の仕事が入ったので、売上増が見込まれる。(製造業〔精密機械器具〕)
- ・大企業・大都市の好景気が、徐々に中小企業・地方にも波及しているように感じられる。また、団塊の世代の退職により、退職金と余暇の消費が市場の活性化を後押しすると思われる。(金融業)
- ・新規オープンする店舗もあり、良くなってくると思われる。(求人広告)

地域別の動向

地域別の現状判断 DI は、鹿行を除く 4 地域で横這いを表す50を上回りました。

地域別の先行き判断 DI は、県央を除く 4 地域で横這いを表す50を上回りました。

1 県北地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は51.4となりました。前期比0.8ポイント低下したものの、**横這いを表す50を2期連続で上回りました**。業種別にみると、家計動向関連 DI は上昇しましたが、雇用関連 DI は横這い、企業動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・暖冬で天候にも恵まれたため、花見や温泉へと出掛ける客が多く、消費意欲もやや高かったようである。(ドライブイン)
- ・地元大手企業の業況に左右されており、下請けの中小企業は契約額のダウン、利益率の縮小など厳しい状況のようである。また、サービス関連業も同様であり、特に飲食業の売上げは大きくダウンしている。(金融業)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は52.3となりました。前期比4.1ポイント上昇し、**横這いを表す50を2期ぶりに上回りました**。業種別にみると、家計動向関連 DI 及び雇用関連 DI は上昇しましたが、企業動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・大型商品の売上げが堅調に推移している。(家電販売店)
- ・依然として非鉄金属類の材料費が上昇傾向にあり、利益を圧迫している。(製造業〔電気機械器具〕)

2 県央地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は52.3となりました。前期比1.9ポイント上昇し、**横這いを表す50を6期連続で上回りました**。業種別にみると、家計動向関連 DI は上昇しましたが、雇用関連 DI は横這い、企業動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・暖冬により、春物衣料が好調に推移している。(百貨店、総合スーパー)
- ・求人・求職者とも増加傾向にあるが、退職者の補充といった時期的なものであり、さほど景気の変化は感じられない。(求人開拓員)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は50.0となりました。前期比0.9ポイント低下し、**横這いとなりました**。また、**先行き判断 DI は全县を通じて最低となりました**。業種別にみると、企業動向関連 DI は上昇しましたが、家計動向関連 DI 及び雇用関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・サラリーマンの定率減税廃止や健康保険料のアップなどにより、財布のヒモが固くなるのではと思われる。(家電販売店)
- ・ロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープンするため、影響を受けると思われる。(ドライブイン)

3 鹿行地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は49.1となりました。前期比4.5ポイント低下し、横這いを表す50を6期ぶりに下回りました。また、現状判断 DI は全県を通じて最低となりました。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全ての DI が低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・例年は、3月の決算に向けて受注が増加する傾向があるが、今年あまり伸びが見られない。(自動車販売店)
- ・相変わらず、企業のニーズに合った求職者が少なく、マッチングが思うように図れていない。(民間職業紹介業)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は51.8となりました。前期比4.0ポイント上昇し、横這いを表す50を3期ぶりに上回りました。業種別にみると、家計動向関連 DI 及び雇用関連 DI は上昇しましたが、企業動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・例年と比べ、メロンなどの予約が増加している。(農産物直売所)
- ・当社の親会社では、設備投資が順調に進んでいるが、鉄鉱石や非鉄原料を中心としてさらに原料価格が上昇する可能性が高い。また、団塊世代の退職に伴う人員補充など、コストアップ要因が多いことから、今年度も厳しい状況が続くと思われる。(製造業〔窯業・土石製品〕)

4 県南地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は50.9となりました。前期比0.4ポイント低下したものの、横這いを表す50を7期連続で上回りました。業種別にみると、企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は横這いとなりましたが、家計動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・企業も生き残りを懸けて過当競争に突入した感があり、経費節約のあおりを受けている。(タクシー運転手)
- ・不動産売買、業務請負・人材派遣業は活発に推移している。一方、土木建築・関連設備工事業は、相変わらず受注不足と採算割れに悩まされている。総体的には、特に良くなったと感じられる材料が乏しい。(金融業)

- (2) **先行き判断**：景気の先行き判断 DI は55.6となりました。前期比8.1ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回りました。また、先行き判断 DI は全県を通じて最高となりました。業種別にみると、家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は上昇しましたが、雇用関連 DI は横這いとなりました。

〈主な判断理由〉

- ・値上げし易い状況になっており、客数も増加すれば、さらに良くなると思われる。(都市型ホテル)
- ・雇用環境は改善しているものの、賃金の上昇には繋がっていない。また、正社員とパート・契約社員との賃金格差は継続し、不安定な生活が続くと思われる。(雇用相談員)

5 県西地域

- (1) **現状判断**：景気の現状判断 DI は53.1となりました。前期比2.2ポイント上昇し、横這いを表す50を2期連続で上回りました。また、現状判断 DI は全県を通じて最高となりました。業種別にみると、企業動向関連 DI 及び雇用関連 DI は上昇しましたが、家計動向関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・後継者がいないことから、目抜き通りの老舗洋品店が閉店してしまい、中心市街地の集客要因がまた一つ消えてしまった。(商店街代表者)
- ・東京方面の業者が、古河市付近のマンション用地や分譲用地を積極的に購入している。(不動産業)

- (2) **先行き判断**：先行き判断 DI は54.8となりました。前期比7.5ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回りました。業種別にみると、家計動向関連 DI 及び企業動向関連 DI は上昇しましたが、雇用関連 DI は低下しました。

〈主な判断理由〉

- ・周辺にショッピングタウンが出来るため期待できる。(ガソリンスタンド)
- ・当地域においては、古河市の合併によりインフラ整備が推進されており、建設業界の景気は良い方であると思われる。(建設業)

■調査から

